



玉村町

玉村町は前橋市、高崎市、伊勢崎市、藤岡市の4市に囲まれ、県央100万都市の一角を占める。関越自動車道の高崎玉村スマートインターチェンジのほか、国道354号、県道藤岡大胡線などの幹線道路が縦横に走り、交通の利便性が高い。「道の駅玉村宿」北側の工業団地では間もなく進出企業7社が決まり、今後の発展が期待される。

暮らすなら、 ここがいい。



同じ玉村町内に住む両親の元を家族で訪れた岩丸麻希さん(右)。長男の仁ちゃん(1)の愛らしい姿は家の中を明るくする。来年1月には第2子が誕生する予定で、リビングにはさらに笑顔があふれそうだ



玉村町長

石川 眞男

玉村町は「暮らすなら、ここがいい」というビジョンを掲げて、子どもから高齢者まで、すべての住民が幸せに暮らせる町を目指しています。

子育て世代には、保育料(第2子以降)や給食費、医療費の無償化などにより経済的負担を軽減しており、親子連れでにぎわう大きな公園や温水プールのほか、町内五

まちはみんなで 一緒に生きる場所

つある小学校区すべてに児童館があり、安心して子育てを楽しめる環境を提供しています。また、こども家庭センターの開設準備や、保育所・幼稚園での外国人による英語あそび、小中学校への外国人英語指導助手の配置、県立女子大学と連携した英語学習など、子どもの発達や英語教育にも力を入れています。

また、高齢者には、健康づくりや居場所づくりなどのほか、乗り合いタクシーのデマンド化を進めており、健康で自立した暮らしを支援しています。

これからも、住民の誰もが「みんなで一緒に生きる場所」として、それぞれのニーズに応え、その暮らしを応援する町づくりを進めていきます。

都内から移住

黒田 相堅さん(40)

槇子さん(39)

旺汰ちゃん(3) 哲平ちゃん(1)



フェリーチェ国際こども園の運動会に参加した黒田さん一家

英語で将来の 選択肢増

黒田相堅さん(40)、槇子さん(39)夫妻と長男の旺汰ちゃん(3)、次男の哲平ちゃん(1)の4人家族。都内に住んでいたが、槇子さんの実家近くに家を建て、2月に引っ越した。

「子どもの将来の選択肢を増やしたい」と考えたのが移住の決め手だ。2人の子どもは現在、フェリーチェ国際こども園に通う。米国で留学と就職をした経験があり、帰国後も英語を使った仕事に就いている槇子さんは、英語の重要性を実感。里帰りした時に同園の雰囲気や町の子育て支援策を知り、英語に毎日触れられる今の環境を選んだ。

槇子さんにとって出身地の町だが、母親になったことで気付いた魅力があるという。「公園や児童館など、子どもが楽しめる施設がこんなにあって、町全体が子育てを応援しているような心強さがある。

地域おこし協力隊

東田 侑子さん(27)



重田家マルシェの来場者に玉村の好きなところを尋ねる東田さん

移住促進へ魅力PR

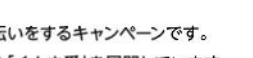
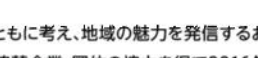
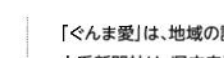
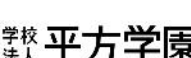
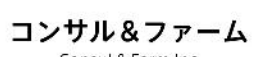
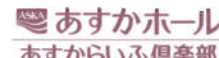
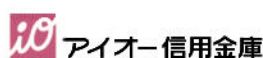
玉村町の地域おこし協力隊就任に合わせ、4月に町内に引っ越した。奈良県出身で、大学も就職先も関西。新たな場所でまちを活性化させる仕事に就きたいと探していたところ、町の募集を見つけた。役割は玉村への移住促進。まずは町を紹介する案内書を作るため、その内容集めに奔走している。7月に国登録有形文化財「重田家住宅」でマルシェを初開催し、建物の有効活用を図るとともに来場者に町の魅力を伝える。今いる住民が町に愛着を持ち、長く住み続けてくれるようにと、住民同士の交流も重視している。交通アクセスの良さに加え、移住者ならではの視点で感じる町の魅力がある。「奈良は稲作ばかりだったから、麦畑が新鮮。麦秋という言葉を知り初めて知った。広々とした景色を眺めるのが好きだ。

国際教育特区

実践的な英語力の習得や国際的なコミュニケーション能力を身に付けるカリキュラムの構築など、より高いレベルの教育ニーズに対応するため、玉村町は2014年に内閣府から国際教育特区の認定を受けた。これにより、株式会社群馬フェリーチェ学園による小学校設置を認可できるようになった。翌年4月、同学園がそ

れまで運営していたインターナショナルスクール小学部が、文部科学省認定の私立小学校に移行した。認定こども園と小学校の幼小一環で英語と日本語のバイリンガル教育に取り組むのが特色。地元の県立女子大や公立学校との連携・交流も進め、町全体の英語教育の充実と振興、地域活性化を図る狙いがある。

地域の力 応援キャンペーン ぐんま愛 協賛社



「ぐんま愛」は、地域の課題をともに考え、地域の魅力を発信するお手伝いをするキャンペーンです。上毛新聞社は、県内自治体と協賛企業・団体の協力を得て2016年から「ぐんま愛」を展開しています。